



アポビッテ *ApoBittle!*

コミュニティファーマシーの創造を支援する情報誌

Vol. **13** 2026

特集 第13回 コミュニティファーマシーフォーラム開催報告





第13回 コミュニティファーマシー フォーラム

薬局薬剤師よ、 未開の曠野を拓こう!

薬局薬剤師の
ブルー・オーシャンは、
何処に

開催報告

CONTENTS

- <特集>
- 02 第13回 コミュニティファーマシーフォーラム・開催報告
- <来賓挨拶>
- 03 岩月進：日本薬剤師会会長よりご挨拶
- <特別講演>
- 04 五十嵐中：いのちとオカネ 医療の価値評価とは？
- <スポット紹介>
- 05 増山ゆかり：患者の権利と尊厳～少数患者の医療アクセスを考える
- <アドバンスドセミナー>
- 西山伸宏：スマートナノマシンが拓く未来医療：老化制御への展開
- <基調講演①>
- 06 ①石原玄基：動物医薬品の調剤 ～12薬局のシステムと実践～
- ②堀司：保険薬局が挑む「ワンヘルス」
～未開の曠野へ踏み出すための組織づくりと薬剤師の意識改革～
- <基調講演②>
- 07 ①青島周一：生成AI時代における薬剤師の専門性
- ②ケビン・ベン・ローレンス：Community Pharmacists in ASEAN:
Emerging Models and Implications for Japan
- 08 スース出展企業・ランチプレゼン
- 09 WEB広告出稿企業
- 10 JACP会員ポスター発表
- 11 共催/ランチョンセミナー・フォーラム協賛企業・フォーラム宣言



● 2026年のコミュニティファーマシーフォーラム ●

第13回コミュニティファーマシーフォーラムを7月26日(日)、前回までの秋葉原から場所を移し、コモレ四谷タワーコンファレンス(東京・四谷)にて開催しました。
薬剤師数は増加し、将来的には過剰になると予想されています。
本年度は『薬局薬剤師よ、未来の曠野を拓こう! ～薬局薬剤師のブルー・オーシャンは、何処に～』をテーマに、まだ薬局薬剤師が手を入れていない未開のブルー・オーシャンを探ってみました。
各講師の講演は示唆に富む内容で、とても役に立つものでした。
そして講演のほか、会員によるポスター発表、企業による展示なども行い、1年に1度のface to faceの再会を喜びあいました。
当協会では、常に新しい薬局・薬剤師像を模索し続けていきます。
薬局薬剤師とは、何なのか? クリエイティブ・ディストラクション(創造的破壊)を恐れず、未開の曠野をめざして、リスタートしよう!と考えています。

一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会 代表理事 吉岡ゆうこ

来賓挨拶

公益社団法人 日本薬剤師会 会長 岩月進

日本薬剤師会が、今年正式加盟した「ワールドファーマシーカウンシル(WPC)」の欧州会議で痛感したのは、先進国が共通の課題を持っているということです。社会保障費の抑制や電子処方箋の普及により、利便性を優先した患者様の逆流や処方箋枚数の減少が進み、従来のビジネスモデルは限界を迎えています。海外のように、経営基盤を多角的に維持する現実的な視点が求められています。では、私たちが進むべき「未開の曠野」とはどこにあるのでしょうか。それは、我々薬剤師自身であり、地域住民が何を望んでいるかを追求する現場そのものです。

オーストラリアのように地域ごとの人口動態や疾病率を緻密に分析し、「この薬局がなくなったら困る」と言われる体制を地域行政や他職種と泥臭く構築しなければなりません。また、日本の薬局の若い世代

の経営者が、アフリカで薬局を開くように、国内市場の縮小を見据えて海外へサービスを展開する視点も重要です。

各地域で最適解を見つけ出し、薬剤師の免許とサービスを地域住民に還元し続けることさえできれば、日本のコミュニティファーマシーは必ず生き残れます。皆様と力を合わせ、この未開の曠野を切り拓いてまいりましょう。



すべてのいのちに、よろこびを。

私たちは、これからも大切な「健康」を支える製品と技術を提供し世界中の人々の豊かな暮らしを支えていきます。



(資料請求先)

ニプロ株式会社

大阪府摂津市千里丘新町3番26号
https://www.nipro.co.jp/

医療機器についてのお問い合わせ
(医薬品部係) 0120-226-410

医薬品についてのお問い合わせ
(医薬品部係) 0120-226-898

2026年7月作成 (K1)
[審2607234519]



特別講演

いのちとオカネ 医療の価値評価とは？

五十嵐中／慶應義塾大学大学院・経営管理研究科 特任教授

実験の未開地から医療経済のフロンティアへ

皆様、こんにちは。五十嵐でございます。私は2001年、東京大学薬学部に新設された「実験を一切しない不思議な研究室」へと足を踏み入れました。当時は周囲から「薬学部なのに実験をしないのか」と奇異の目で見られ、私自身もどこか消極的な選択から始まった道でしたが、気づけば四半世紀、医療経済学という未開の曠野をひたすら歩み続けてまいりました。

この四半世紀で、医療を取り巻く世の中の空気感は劇的に変化しました。かつて医療の現場において「お金」や「コスト」の話をすることは、どこか忌避される傾向がありました。しかし、オブジーボに代表される超高額医薬品の登場、コロナ禍における医療リソースの限界の可視化、そして高額療養費制度の見直し議論などを経て、今や「有限な財源の中で、いかに命とお金のバランスに向き合うか」は避けて通れない社会課題となっています。

高額療養費と破滅的医療費支出(CAT)の真実

日本の国民皆保険制度を守るため、国は保険給付の「中核」を維持しつつ、その周辺にあるアウトラインの構造改革に着手し始めています。その象徴的な議論が、高額療養費制度の見直しです。

これまで十分なデータが存在しなかったこの領域において、私は医療費の支払いが家計を著しく圧迫する「破滅的医療費支出(Catastrophic Health Expenditure CAT)」の実態をひたすら分析し、可視化することに注力してきました。現行の制度下であっても、がん患者様の約17%がこの破滅的狀態に陥っており、さらに病気罹患に伴う休職や離職といった「収入減」まで考慮に入れると、その割合は3割から5割にまで跳ね上がるのが実態です。今回の制度改正で年間上限額の設定など一定の改善は見られたものの、低所得者層への負担感や生活困窮のリスクは依然として重く、この問題は未だ解決の道半ばにありますが。

「費用対効果分析(QALY)」の可能性と本質的な限界

昨今、医療費の適正化に向け、費用対効果の指標である「QALY(質調整生存年)」を用いて、メリハリのある給付判断や薬価設定を行おうとする動きが注目を集めています。しかし、単に数値を算出すれば機械的に医療の優先順位が決まるわけではありません。QALYの算出数値は、採用する換算式やQOL質問票の違いひとつで大きく変動する、極めて不確実な側面を孕んでいます。

また、医療経済学の本来の役割は、計算式によってデジタルに『切り捨てる答え』を出すことではありません。「救命原則(重症者を優先すべきという倫理的判断)」をはじめ、「若年層の生活・労働への影響」や「介護者の負担軽減」といった、数値化しにくい多様な社会的価値観を可視化し、建設的な議論の土台を作ることこそが本質です。単一の数値計算だけで政策決定を行おうすることは、かえって現場の倫理や患者の権利を損なう危険性を含んでいます。

地上戦で切り拓く持続可能な医療の未来

日本の皆保険制度は「すべての高度医療を等しく均一にカバーする」という、世界的に見ても極めて特異で手厚いモデルによって成り立ってきました。しかし、少子高齢化が進む現在、従来の枠組みをそのまま維持することは困難であり、もはや限界は誰の目にも明らかです。OTC類似薬の自己負担割合の見直しやセルフメディケーションの推進など、真に必要な医療とそうでない医療の切り分け(メリハリ)を進めることは、制度を未来へつなぐために不可欠な決断です。

しかし、国が机上の空論(空中戦)で理念や制度変更を提示するだけでは、この未開の構造改革は進みません。患者の意識や行動変容を促し、生活習慣病の予防や適切な薬物療法を日々現場で支えるのは、地域に立つ薬剤師や医療者の皆様による「地上戦」の実践です。国民全員が真に必要な医療に安心してアクセスできる持続可能な未来に向け、現場の皆様と共にこの医療経済のフロンティアを切り拓いてまいりたいと思います。



スポット紹介

患者の権利と尊厳～少数患者の医療アクセスを考える

増山ゆかり／One Team代表

2026年の日本で起きている「医療アクセス」の現実

皆様、こんにちは。私はサリドマイド薬害の当事者ですが、本日は過去の被害の訴えではなく、現代の日本で「必要な医療に十分にアクセスできない患者が数多く存在する」という現実をお伝えしたく参りました。国から「制度があっても使われていない」と言われたことがありますが、使わないのではなく「アクセスできていない」のです。私自身もその一人です。

「未知の身体」と高齢化・二次障害の二重苦

被害症状は手足だけでなく、血管・神経の異状や内臓奇形など極めて複雑で「未知の身体」を抱えています。現場で適切な対応を受けられず、鎮痛剤だけで帰されるケースも絶えません。平均年齢が63歳を超えた今、親の高齢化に加え、二次障害や生活習慣病が深刻化しています。透析用シャントが作れないなど、一般的な技術で助かる病気であっても受け皿がないために命が脅かされています。

ドイツでの衝撃 ～「救済」から「権利の行使」へ～

2024年に訪れたドイツでは、10ヶ所の専門外来と包括的支援体制が整い、補償の見直しも進んでいました。思わず「もっと救済を求めるべきだった」と漏らした私に、現地の人は「あなたに必要なのは救済ではなく、本来持っている権利の行使だ」と即答しました。自力で我慢・努力して生きることが誇りだと思っていた私にとって大きな衝撃であり、個



人の我慢は他者の苦しみを強いることにつながると気づかされました。

医療に携わる皆様へ～受け皿となる仕組みと尊厳～

副作用が生じた後や希少疾患を抱える人々の「その後の人生」を支える視点が不可欠です。皆様には以下の2点をお願いいたします。
1) 医療アクセスの仕組みづくり：個人の努力に委ねず、困難を抱える患者の受け皿を国の制度として整備すること。
2) 制度や現場への問い直し：現在の医療が「患者の権利と尊厳」を真に保障しているか目を向けること。
誰もが今日と明日を尊厳持って生きていける社会を、皆様と共に作っていきたくと願っております。



アドバンスドセミナー

スマートナノマシンが拓く未来医療：老化制御への展開

西山伸宏／東京科学大学総合研究院 化学生命科学研究所 大学院生命理工学系 ライフエンジニアリングコース 教授

私は高分子化学の技術を医療に応用し、ドラッグデリバリーシステム(DDS)や「スマートナノマシン」の研究を進めてきました。薬を体内の狙った場所へピンポイントに届けるDDSは、mRNAをはじめとする最新のバイオ医薬品を分解から護り、安全に働かせるために欠かせない基盤技術です。私たちはこの技術を飛躍させ、体内で病気の検出・診断・治療を一貫して行う「最小の医療機器」としてナノマシンを捉えています。

2022年に放送されたディーン・フジオカさん主演の科学ミステリードラマ『パンドラの果実』では、私がナノマシン技術の医療監修を務めさせていただきました。かつてのSF映画のような「体内の微小マシン

が病気を治す」未来は、すでに現実の科学として動き出しています。

ナノ医療イノベーションセンターでは、2045年までに体内のナノマシンが自動で病気を治す「体内病院」の実現を目指してきました。その成果は着実に形になっています。がんの環境に応答して1ミリの微小転移を発見するMRI技術や、超音波エネルギーと組み合わせで切らずに病変を破壊する「ケミカルサージェリー」を開発しました。重いがんを抱えたワンちゃんが、治療からわずか1週間で元気に走れるまでに回復し、現在は人間のがん治療への臨床研究が進んでいます。

さらに、約18ナノメートルという極小サイズでがんの奥深くまで浸透する「uPIC」や、炎症を起こさない高分子キャリアなど、従来の常識を覆す医療材料を創出しました。創業ベンチャーでは、がん細胞の防御メカニズムを崩して自滅へと追い込む新薬開発にも挑戦しています。

そして今、私たちが挑んでいるのが「老化の制御」です。加齢とともに体内に溜まり慢性炎症を引き起こす「老化細胞」をナノマシンでピンポイントに検出・除去することで、肝硬変や肺線維症といった難病を発症前の「未病」の段階で防ぐ未来がすぐそこまで来ています。ナノマシンが創り出すワクワクする未来の医療に、ぜひご期待ください。





基調講演 ① 1

動物医薬品の調剤 ～12薬局のシステムと実践～

石原玄基／株式会社12薬局 代表取締役

本日は私たちが挑戦している「動物専門薬局」の取り組みについてご紹介させていただきます。私自身は薬剤師でも獣医師でもなく、大学院で昆虫の学位を取得した「虫博士」でございます。前職のペット保険会社にて約50件の動物病院運営に携わらる中で、過酷な院内調剤の現状に直面し、現場の課題を解決したいという想いから本事業を立ち上げました。

現在、ペットの家族化や高齢化、ウサギやミイアキャットなど飼育動物の多様化に伴い、慢性疾患の長期管理や高度な投薬ニーズが拡大しています。しかし現場では、動物の体格や体重に応じた「錠剤の6分の1や8分の1分割」、抗がん剤の粉碎といった極めて繊細な調剤作業を、激務の合間に院内調剤で行っています。その結果、1時間以上におよぶ会計待ち時間や過重労働、調剤ミスのクレームリスクが深刻な課題となっていました。そこで当社は、東京・埼玉・京都の



拠点を中心に、自社開発のオンライン処方箋システムを活用した調剤・配送インフラをゼロから構築いたしました。自由診療特有の課題に対し、動物病院側の売上を守り、未収金リスクを抑える柔軟な精算スキームや、現場の繁忙期に合わせた土日祝日の開局体制を確立。現在では全国約400の動物病院様と共に歩むサービスへと成長しております。さらに地域薬局様との連携や自治体との交渉を重ね、埼玉や京都には日本初となる動物病院の「門前薬局」も開設いたしました。

法制度や監督省庁の違い、獣医療現場との認知のギャップなど未開の領域ゆえの障壁は未だ多く存在します。しかし、薬局・薬剤師の専門性を動物医療へと還元することで獣医師の負担を劇的に軽減し、大切なペットと飼い主様が心から安心して治療を受けられる「新たな当たり前」を、日本の動物医療の未来に創り上げてまいります。



基調講演 ① 2

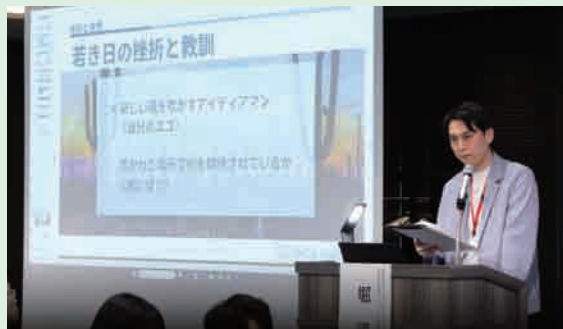
保険薬局が挑む「ワンヘルス」～未開の曠野へ踏み出すための組織づくりと薬剤師の意識改革～

堀司／株式会社オーガホールディングス 上席執行役員 株式会社大賀アニマリンク 代表取締役社長

オーガホールディングス/大賀アニマリンクの堀司です。グループの大賀薬局は九州を中心に110店舗の保険薬局を展開する中で、人と動物の健康を一体で守る「ワンヘルス」という理念を掲げ、これまで保険薬局が誰も足を踏み入れてこなかった動物医療という未開のフロンティアへ果敢に足を踏み入れました。

しかし、その先に待っていたのは想像を超える激しい嵐でした。獣医師会からは「自分たちの領域を侵食しに来たインベーダーだ」と強い警戒と反発を受け、目に見えない業界の不文律や高い参入障壁という巨大な壁に跳ね返される過酷な日々が続きました。

参入当初の甘い考えを完全に打ち砕かれた私たちは、慢心を捨てて現場で泥にまみれる覚悟を決めました。目先の売上や利益を追うことを一切やめ、「不休で命と戦う獣医師の先生方の最も泥臭い相談相手・壁打ち相手」として医療現場に通い詰め、地道に対話を重ねることで信頼という名の楔(くさび)を一つずつ打ち込み続けたのです。同時に、自社の薬剤師たちもこの厳しい荒波の中へと投げ込みました。臨床最前線の切迫感や獣医師が抱える深い苦悩を肌で知った彼らは、ただ店舗で「処方箋を待つ受身の薬剤師」から完全に脱却し、共に地域医療の課題を解決背中を預け合える真の



医療パートナーへと力強く覚醒していききました。

この未開の地を進むのに必要なのは、「新たな市場で儲かりそうだ」といった軽薄な好奇心やビジネス本位の姿勢ではありません。既存の薬局という狭い枠組みを自ら打ち壊し、獣医師の先生方と共に大切な命を救う持続可能な医療世界を新しく創り上げるという「本気の覚悟」です。

私たちはこれからも既存の常識にとらわれることなく、先陣を切ってこの曠野を力強く突き進んでまいります。



基調講演 ② 1

生成AI時代における薬剤師の専門性

青島周一／医療法人社団 徳仁会 中野病院



生成AI時代において「薬剤師の専門性がAIに代替されるのではないか」という不安や懸念を抱く方は少なくありません。実際に、生成AIは短期間で医師国家試験の合格水準をクリアするまでに進化しており、論理的思考や正解を導き出す知的な作業、論文の検索といった業務においては、人間を遥かに凌駕する圧倒的な生産性と精度を見せています。

しかし、専門知識のない一般人がAIを用いて正確な疾患特定や対処法に到達できる割合は3割程度にとどまるという研究結果もあり

ます。モデル自体の性能が高くても、使い手が適切なプロンプトを与えられなければ正解には至りません。ここで重要となるのは指示の巧みさではなく、構造的に問いを立てる「気づきの解像度の高さ」です。問いの切り口を構築するためには専門知識が不可欠であり、これこそが専門性の核となります。また、AIは入力された問いに回答することは得意ですが、自ら問いを発することはできません。EBMの観点においても、背景的な知識の出力はAIが得意とする一方、患者個人の文脈や生活環境、価値観に合わせた将来的な問いを立てることは人間にしかできない役割です。

AI時代に求められる薬剤師の専門性とは、高信頼・高文脈・高責任を基盤とした「人間力」にあります。調剤業務やテンプレート的な服薬指導などの定型業務はAIに置き換わっていきますが、患者個別の状況を深く理解し、他職種と協同しながらエビデンスをどう解釈するかという洞察力、そして薬物療法に対する責任を引き受ける対人スキルは代替されません。

単にAIが生成した回答を編集するのではなく、AIと対話しながら対等なパートナーとして共に新たな価値を創り出す過程を通じ、自らの専門性を発揮していく姿勢が求められています。



基調講演 ② 2

Community Pharmacists in ASEAN : Emerging Models and Implications for Japan

ケビン・ベン・ローレンス／FIP財団(教育・研究)理事

私はシンガポール、インドネシア、マレーシアの3カ国で薬剤師ライセンスを所持し、商社での医療投資経験や国際薬剤師連盟等の役員を務めてまいりました。2023年にはジャカルタに薬局併設クリニックを開設し、先進的な医療実務の展開に取り組んでいます。

ASEANは人口増加と経済成長が続く非常にユニークな地域です。経済発展に伴いチェーン薬局化が進む傾向にありますが、インドネシアのように独立型薬局が主流の国もあり、先進国でありながら独立型が多い日本と共通点も見られます。一方、日本の豊富な薬剤師数は東南アジア諸国と比較しても際立っており、近年は日系薬局や自動化機器メーカーの進出も活発です。

かつて薬剤師の主業務は医師の判読困難な手書き処方箋の解読や調剤でしたが、現在はデジタルトランスフォーメーション(DX)へと急速にシフトしています。シンガポールでは「一患者一記録」の統合電子ヘルスレコードやe-ファーマシー、遠隔医療キオスクが整備され、患者ケアの効率化が大きく進んでいます。医療現場ではハードウェアと高度なソフトウェアの連携が不可欠であり、日本の優れた自動化機器も現地の運用や個別化ニーズに即した柔軟なソフト対応が参入の鍵となります。

さらに、患者の服薬負担を減らす医薬品の3Dプリンティング技術や、専門資格を持つ薬剤師による共同処方モデルなど、新たな医療形態も登場しています。調剤や業務の自動化を推進する本質的な目的は、薬剤師が患者としっかり向き合う時間を創出することにあります。

厳しい規制だけに縛られず、新しい技術や仕組みを柔軟に取り入れるASEANの挑戦的な環境は、今後の日本の薬局や薬剤師のあり方に対しても多くの重要な示唆を与えてくれます。



ブース出展企業

多様な企業からの提案を見て、体験・相談できる展示ブースが設置されました。



株式会社AVE

「結果に拘る採用支援で人事を支える」薬学系企業の採用支援と薬学生採用に特化したサービス「Litmus」を展開。



NeoX株式会社

主力製品のAI-OCR「薬師丸賢太」をはじめ、薬局DXと省人化を支援するソリューションを展開。



ONE TEAM

サリドマイド被害当事者が設立。希少疾患患者が必要な医療を受けられる社会を目指し活動しています。



株式会社ウエルアップ

指に光を投射し、30秒で野菜摂取の状況を判定、レポート出力できる測定器「ベジミル」のデモ展示。



カネキュアヘルスケア株式会社

病院・クリニック、歯科医院、保険薬局等、医療機関限定のサプリメントを販売しています。



健栄製薬株式会社

「ヒルマイルド」「手ピカジェル」でおなじみ。OTC・医療用医薬品を展開しています。



(一社)日本コミュニティファーマシー協会

ドイツの薬局でいただいたり購入したりしたエコバック、グッズなどを参加者に配布。たくさん貰っていただきました。



東日本メディコム株式会社

生成AIを活用した電子薬歴システムの紹介。患者と薬剤師の会話を音声認識、SOAP形式で書き起こし。

WEB広告出稿企業

Central Apotheke



コロナ禍中、地域住民に医薬品はもとより安心と勇気を与えるのがドイツの「いきつけ薬局」です。日本人薬剤師の薬局として、日本の良さをドイツに、ドイツの良さを日本に伝える仕事もしています。

大塚食品株式会社



時代の一步先を行く画期的なアイデアで“新しい食”を創出し、ナチュラルフードテックカンパニーとして、人々に健康とその先にある喜びや幸せをもたらすことができる企業を目指してまいります。

第一三共ヘルスケア株式会社



第一三共グループのヘルスケア事業を担い、生活者の健康とセルフケアを支える製品を展開。解熱鎮痛薬「ロキソニンSプレミアム」をはじめ、身近な不調に寄り添う商品をご紹介します。

東武トップツアーズ株式会社



東武トップツアーズは長年ドイツ薬学視察旅行の企画・実施をしております。旅行会社ならではのきめ細やかなホスピタリティを通じて、私たちにしか提供できない価値を創造してまいります。

株式会社フローラ



「健康の花を咲かせよう」との願いをこめ誕生したフローラ薬局。正しい薬の情報提供を通じて患者様毎に最適な服薬支援できるように…地域の医師、看護師など多職種と連携した支援を行います。

エーザイ株式会社



患者様目線を大切にしたhhc(ヒューマン・ヘルスケア)の理念のもと、MCI(軽度認知障害)やアルツハイマー病に向き合い、認知症に新しい答えを届ける治療と研究を進めています。

株式会社くすりの窓口



当社事業は、お客様のニーズからスタート。患者様と医療・介護福祉すべてをつなぐプラットフォームを構築し、患者様はもとより、ご協力いただくクライアント様の生産性向上に寄与してまいります。

ドイツ薬事博物館



JACPは、ドイツ薬事博物館の賛助会員です。ハイデルベルク城内にあるドイツ薬事博物館は、医薬の歴史資料を集めた博物館であり、JACPのドイツ薬学視察旅行では必ず訪れる場所です。

株式会社トーショー



株式会社トーショーは錠剤分包機、散薬分包機を中心に病院・調剤薬局の設備や機器の発展に携わってきました。刻々と変化する医療現場の未来を見据え、より良い調剤業務を支援して参ります。

株式会社ユヤマ



1964年創業以来、散薬の分包機を始めとした調剤機器を中心に、各種薬剤業務を支援するシステムを販売。自社開発のモノづくりにこだわり、開発から製造、販売、サポートまで製販一体の体制を構築しています。

ランチプレゼン (ブース出展企業)



東日本メディコム株式会社



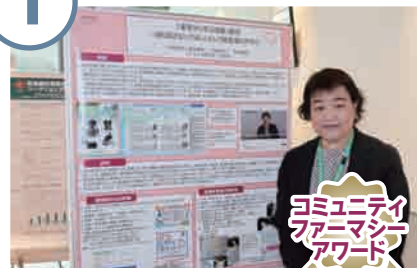
NeoX株式会社

JACP会員ポスター発表

7組のポスター発表がありました。コミュニティファーマシーアワードは、「薬害から学ぶ活動」報告～繰り返さないでほしいという被害者の声から～という演題で発表したTAYA研究会(山梨県)の中村由喜氏に贈られました。



1

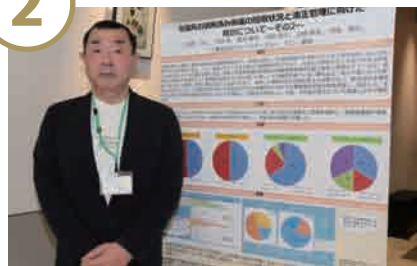


「薬害から学ぶ活動」報告 ～繰り返さないでほしいという被害者の声から～

中村由喜(TAYA研究会、あおぞら薬局富士見店)、百瀬美紀・薬袋貴美・渡辺香織(TAYA研究会)

TAYA研究会は「薬害から学ぶ活動」を、厚生労働省の教育資材を活用し、地域住民、薬剤師、医療を目指す高校生への講演会、小学生薬教育にて実践している。薬剤師の責務は「薬害をおこさない」ことであり、薬害から学び伝えることが重要である。

2



当薬局の調剤済み麻薬の回収状況と 適正管理に向けた検討について「その2」

保坂洋二・田島貴司・内田亨・向田純子・榎本隆幸・山田珠美(株式会社サニーファーマシーサニー薬局)

薬局での麻薬管理は麻薬及び向精神薬取締法を基に厳密に管理されているが、調剤済み麻薬の返却までの取り扱いに関して十分確認出来ていない事もある。調剤済み麻薬が適切に回収、廃棄されるために法令に則った対応を徹底することが重要である。

3

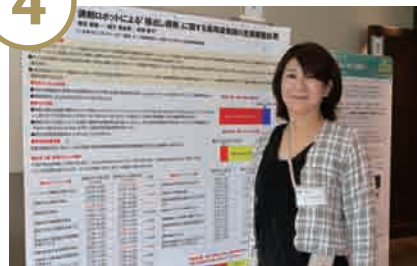


かかりつけ薬剤師としての同意取得数増加のための取り組み

石原友美・鷺ノ森拓生・渡辺祐貴・邑瀬誠(株式会社杏林堂薬局)

2026年調剤報酬改定で実績評価へ舵が切られた「かかりつけ薬剤師」。新天地で恐れず積極的な声掛けとフォローアップを実施、4か月で同意取得39件を達成。現在まで40件程で継続中。更なるお薬手帳を活用した多職種連携の推進とより良い患者支援を目指す。

4

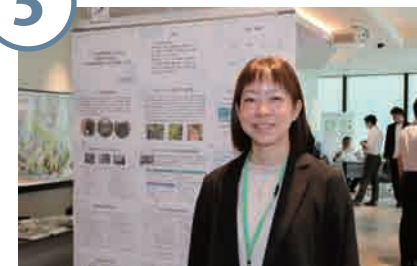


調剤ロボットによる「箱出し調剤」に関する 薬局薬剤師の意識調査結果

廣田憲威(一般社団法人大阪ファルマプラン社会薬学研究所、一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会)、城戸真由美・吉岡ゆうこ(一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会)

調剤ロボットによる「箱出し調剤」に関する薬局薬剤師の意識調査を実施。調剤ロボット導入群で最もメリットとして感じているのは調剤過誤の防止であり、安全性の面で「箱だし調剤」は重要であることがわかった。

5

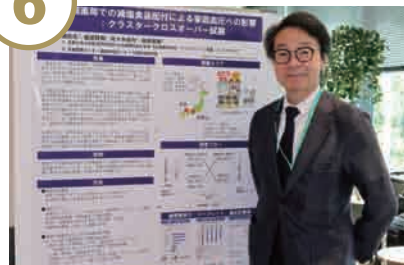


ドイツ薬学視察から考える薬剤師の役割と 人生の最終段階における医療・介護

長谷川千晶(うさぎ調剤薬局 浜大津店)

ドイツ薬学視察を通じ、医療・介護制度や文化的背景、薬剤師の役割を日本と比較した。未病から人生の最終段階まで継続して関わる薬剤師の役割と、本人の意思を尊重した支援の重要性が示唆された。

6



地域薬局での減塩食品配布による家庭血圧への影響： COMPASS-SRクラスタークロスオーバー試験

岡田浩(京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻予防医療学分野)

高血圧の治療中の患者さんを対象として、薬局で5日間の減塩食品(マイサイズ®)の配付と薬剤師による生活習慣改善の支援をリーフレットを使って行い、家庭血圧の変化や減塩への知識・意識・行動への効果をクロスオーバーRCTで検証した。

7



緊急避妊薬販売のためのワークショップ開催報告

城戸真由美・山村重雄・吉岡優子(一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会)、天方奉子(薬局セントラルファーマシー長嶺)

2025年社会薬学会第43年会で開催した対面型実践ワークショップの報告と参加者へ行った前後アンケート結果を解析。シナリオ討論を挟むことで、情報収集力や指導力に対する薬剤師評価(自己評価スコア)が大幅に向上した。

共催/ランチョンセミナー

カネカユアヘルスケア株式会社

フォーラム協賛企業

アピラメイト株式会社 共和メディカル株式会社 ハートフェルト株式会社
アポクリート株式会社 ニプロ株式会社 株式会社パル・オネスト
株式会社かくの木 有限会社ネオフィスト研究所 株式会社マスカット薬局
株式会社杏林堂薬局 ネオプラスファーマ株式会社

フォーラム宣言

第13回コミュニティファーマシーフォーラムのメインテーマは、『薬局薬剤師よ、未開の曠野を拓こ

う!』でした。午前は「医療経済」「薬害」、午後からは「動物調剤」「未来医療」「生成AI」「アジアの薬剤師」など、ほかでは得られない多様な気

づきの場になりました。薬局薬剤師のブルーオーシャン、受け身で待つだけでは、決して訪れません。予測が困難な時代だからこそ、新しい薬剤師像を追求し、市場を創造することで、意味ある未来が拓けます。

そこで、今年のフォーラム宣言は、**薬局薬剤師のブルーオーシャンとは、何か、不確実な未来を予測する最善の方法は、明日を恐れず、自らが創造すること、未開の曠野に挑戦しよう!**

自ら苦心し、汗をかくて奮闘すれば、未来は「予測」ではなく「必然」となります。今できる一歩を、踏み出しましょう。



一般社団法人 日本コミュニティファーマシー協会



ApoBitte! vol.13

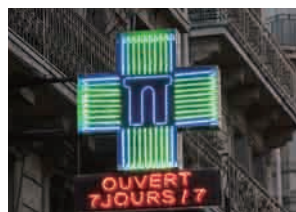
発行日：2026年 9月25日発行

価 格：定価400円

発行所：一般社団法人日本コミュニティファーマシー協会
〒153-0063東京都目黒区目黒1-6-23
TEL:03-6303-9181 FAX:03-5759-1724

発行人：吉岡ゆうこ

デザイン：ヨシオカデザインルーム



今号の表紙写真(左は同店別ショット)
フランス・パリは凱旋門にほど近い薬局
PHARMACIE DE LA PORTE MAILLOT。
凱旋門エリアのお店であることをアピー
ルしているのか、緑十字の電飾看板やエ
ントランスには凱旋門を象ったマークが
施されていた。隣のカフェも含めてパリ
にふさわしい洒落た風情の薬局でした。